

令和6年度 学校関係者評価書

宇和島市立宇和津小学校

1 確かな学力の定着と向上（必須）

- 計画的なふるさと学習や授業を工夫することによって円滑な学習活動ができている。
- 地域に関する学習や活動が活発で、児童は地域のことをよく知っている。とても良い学習であるので今後も続けてほしい。
- 読書活動の評価は毎回低い、読み聞かせ活動や図書室の充実等、改善へ向けてよく取り組んでいる。
- 読書活動の充実の評価が低い。授業の一環で、図書館での読書を取り入れることができないか。
- 読書については、保護者アンケートで唯一のD評価である。市立図書館の電子図書は端末でも使えたと聞いているので、児童にも興味を持たせられるのではないか。
- ◇ 共働きの家庭が多く、子どもは家に帰るとゲームをしたり、テレビや動画を見たりして過ごす時間が増えている。子どもが集中して勉強や読書ができる環境を家庭で作ることも大切である。
- ◇ 家庭内での学習や読書は、家庭の課題でもある。各家庭の考え方も左右されると感じる。親が口で言うだけでなく、背中を示すことも必要なのではないか。

2 生徒指導の充実（必須）

- 生徒指導の問題に対し、教師間での情報交換が密にできている。今後も、家庭・地域・関係機関と連携しながら組織的に対応してほしい。
- 児童による自己肯定感への評価は低い、効果はすぐに表れるものではない。教師の評価がBであるので、継続していくことで少しずつ変化が表れると期待している。
- 教員が担当学年のみならず、全校の児童（特に何かしらの問題を抱えている）の様子を気に掛けながらチームで育てていると感じる。社会科や外国語など、担任以外の教員と関われるのも良い。
- 児童の自己肯定感・自己有用感が低い。児童の個性や長所、得意なことを少しでも伸ばすことができる働きかけを続ければ、自己肯定感が上がっていくのではないか。
- 自己肯定感を高めるために、達成可能な目標の設定・他人と比較しない・完璧主義にならない・達成した事への褒める姿勢（自分も周りの人も）等、学校でいろいろと実践しているとは思いますが、なかなか結果につながっていかないのが気になる。
- ◇ 自分の口から出る言葉に一番影響を受けるのは、自分の脳だと聞いたことがある。自己肯定感や自己有用感を伸ばすために、自分の長所を口にする活動を取り入れてみてはどうか。
- ◇ 自己肯定感を高める教育は、学校においてだけではなく家庭でもなされる必要がある。しかし、親世代はそのような教育を受けた人が少なく、わが子の自己肯定感をどのように育めばよいのか分からない人も多い。参観日等にそのような講習があると良いのではないか。

3 働き方改革（必須）

- 職場が、何か困ったときに相談しやすい雰囲気になっていることはすばらしい。
- スクールサポートスタッフや地域学校協働活動推進員を効果的に活用し、負担軽減を実感できていることがうかがえた。
- 課外活動は以前に比べるとコンパクトになってきている。しかし、他にも自然科学教室の引率など多様なサポートがあるように見える。特定の教員に偏らない対策に期待している。
- 概ね良好のように感じる。今後も矜持を持って臨んでいただきたい。
- ◇ 大変な仕事だが、ワーク・ライフ・バランスをさらに整え、プライベートも充実させてほしい。

4 地域との連携（必須）

- 学校運営協議会をよく活用できている。
- 保護者の「ちょこっとサポーター」という新しい取組は、保護者の自主的な協力が得られてとても良い。保護者からは「気軽に参加できて嬉しい。」という声が聞かれた。教員、保護者ともに好印象な様子であった。
- 「ちょこっとサポーター」の内容によっては、地域も協力をしていけるのではないかと思う。
- ホームページや学校だより等で、学校の活動や子どもたちの様子をよく知ることができている。
- ◇ 公民館では、児童のための取組も数多く行っている。児童の健やかな成長のため、公民館事業に積極的に参加するよう周知してほしい。

5 その他

なし